

憧憬、あなたの

神宮詩織

幼い子どもをカーテンの裏に隠してしまった。

繭を紡ぐ、愚かなこの子のために

余地に託すしかないのだろうか。

柔らかな朗読に罰を与えたくて

青空に一点残された雲を虐めている。

アヒルの子は一輪の薔薇にはなれない。

眼球に薄いレエスを重ね、夢。

あなたの地獄はどこですか。

沈黙に幾千万の可能性を見出して

ヴァーチャルな敵意に脳みそを焼かれている。

そっと肩を抱かれ、ぬるまったくなる。

一時の煌めきは、羽化の不可逆性を信仰し

シャボン玉の私に恥をかかせた。

悪戯な無知は雷鳴と成り果て

ストレッチャーの上の身体を突き刺している。

ぎゅっ、私はここにいるね。

誰もいない、息ができない、浮き漂う

だから宙の星は手を繋いだのね。

他人宛のラブレターが嬉々と囁いて

未承認の一生を恣意的相互依存で騙している。

ちいさな部屋で

涙の穴にお花の刺繍をして愛でようか。

夜の端っこにホイップを絞って食べようか。

瘡蓋の痕にジムノペディを聴かせようか。

ね。